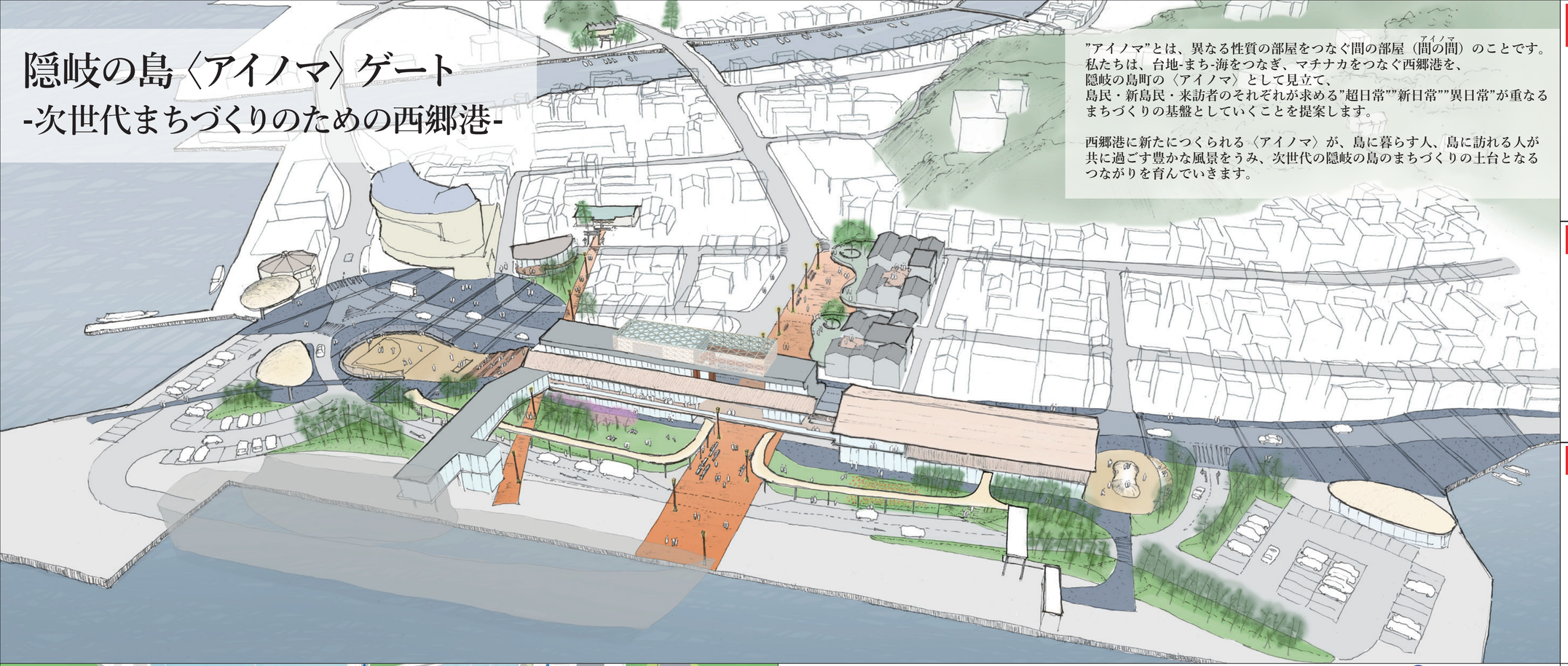
隠岐の島〈アイノマ〉ゲート
-次世代まちづくりのための西郷港-



”アイノマ”とは、異なる性質の部屋をつなぐ間の部屋（間の間（アイノマ））のことです。
私たちは、台地-まち-海をつなぎ、マチナカをつなぐ西郷港を、
隠岐の島町の〈アイノマ〉として見立て、
島民・新島民・来訪者のそれぞれが求める”超日常””新日常””異日常”が重なる
まちづくりの基盤としていくことを提案します。

西郷港に新たにつくられる〈アイノマ〉が、島に暮らす人、島に訪れる人が
共に過ごす豊かな風景をうみ、次世代の隠岐の島のまちづくりの土台となる
つながりを育んでいきます。

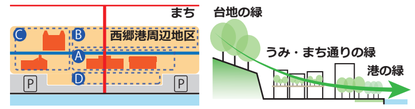
1.設計趣旨（デザインコンセプト）
隠岐の島〈アイノマ〉ゲート -次世代まちづくりのための西郷港-

西郷港周辺整備事業が隠岐の島の新しい玄関口としての景観をつくり、次世代まちづくりの基盤となるよう、私たちは下記の3つの提案をおこないます。
①海と街がつながる新しい港の風景〈ゲート〉をつくる
②地域とつながるまちづくりの基盤〈アイノマ〉をつくる
③隠岐の島の資源を地域の将来ヴィジョンとしてつなげる〈西郷デザインノート〉

新しく整備された西郷港で、島に暮らす人、島に訪れる人が共に過ごす風景により、次世代の隠岐の島のまちづくりの土台となるつながりを育んでいきます。

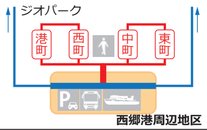
2.エリア全体の機能配置（ゾーニング）
既存施設をつなぎなおし新しい港の景観をつくる

西郷港周辺地区にこれまで整備された様々な観光・交流施設同士、街区と港をつなぎなおし、うみとまちが一体となった新しい港の景観をつくります。大きな機能配置は現状のものをいかしつつ、緑とオープンスペースでつなぎ直し街路や広場を島に暮らす人と訪れる人がともに行き交い過ごせる豊かな空間に生まれ変わらせます。



3.交通機能に関する整備方針
西郷港周辺地区と島をつなぐみちづくり

西郷港周辺地区をマチナカ（港町、西町、中町、東町）を巡る散策ルートと、島の自然（ジオパーク）を巡る公共交通・ドライブルートの起点に位置づけ、ターミナル周辺の交通機能を集約します。臨港道路はシェアドスペース（歩車共存道路）の導入を検討することで、うみとまちをつなぐオープンスペースとしての役割を持たせます。



■西郷デザインノート

デザインノートとは？
地域の歴史/資源/活動/将来計画などを一つの絵に将来目指すまちの姿として描くものです。みなさんで作成・更新して個々の事業や活動の連携に活用します。

【歴史】
川や台地に沿ったみちを中心に北前船で栄えた各集落

1900年頃
かつて西郷は北前船の寄港地/風待港として、歌/踊り/石州瓦などの文化が持ち込まれた。神社を中心に、川や台地に沿う道沿いに寄港地の宇屋町・行政中心の目貫村・武家屋敷の八尾村の3集落が発展した。

【現状】
港周辺に点在する公共施設とまちのつながりの欠如

離振法以降に海岸部分は埋立造成が行われ、西郷港周辺地区も公共施設整備が進んだ。現状ではそれらの機能の連携が不十分なため、日常のまちの暮らしと離れている。

■地域資源の例

西郷港周辺地区は、港と各ルートをつなぐ重要な交流・交通拠点となります。
特にうみ・まち通りや〈うみ・舞台〉市庭ゾーンは「軸」と「結節点」の役割を担います。

マチナカ散策ルート（歩行者動線）
島巡りルート（広域車両動線）
駐車場
バス停
川と台地を繋ぐ道
遊覧船航路
バスルート
マチナカ拠点
神社
川祭りを共同で開催する神社
視点場
宿泊施設
飲食店
公共施設
寺院
銀行・郵便局

■〈アイノマ〉プログラム

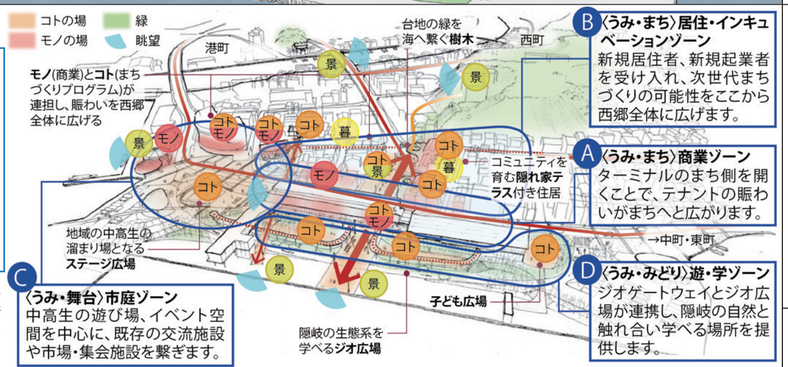
属性別の課題感

島　民→ コミュニティ帰属は大事だけれど少し解放されたい瞬間もある
→ **”超日常”の場への憧れ**

新島民→ 移住して間もない時に孤立感…コミュニティに加わるきっかけが欲しい
→ **”新日常”へのスムーズなスタート**

来訪者→ sightseeingからjourneyへ 従来の見物型観光ではつまらない
→ **”異日常”への渇望**

コト・モノ・食・働・住・学・遊のテーマ別に、島民の超日常、新島民の新日常、来訪者の異日常が形成され、それぞれが繋がり、アイノマが醸成されていくステップと、それを支える体制を提案します。



B〈うみ・まち〉居住・インキュベーションゾーン
新規居住者、新規起業者を受け入れ、次世代まちづくりの可能性をここから西郷全体に広げます。

A〈うみ・まち〉商業ゾーン
ターミナルのまち側を開くことで、テナントの賑わいがまちへと広がります。

C〈うみ・舞台〉市庭ゾーン
中高生の遊び場、イベント空間を中心に、既存の交流施設や市場・集会施設を繋ぎます。

D〈うみ・みどり〉遊・学ゾーン
ジオゲートウェイとジオ広場が連携し、隠岐の自然と触れ合い学べる場所を提供します。

ステップ	1 2022 - 2025	2 2026 - 2030	3 2031 - 2035
	アイノマの基盤構築 島民、新島民、来訪者の楽しめる場やニーズを明確にする	**アイノマ PJ のスタート** 島民、新島民、来訪者の繋がりが強くなっていく	**持続するアイノマを創る** 島民、新島民、来訪者の交わる領域が増えていく
取組内容	コト：しげさ踊りの神秘性、隠岐騒動などの歴史、ジオパークの魅力など隠岐の島町の資源の価値を整理する	コト：しげさ踊りを観覧する展望デッキなど、資源に応じた体験価値を高める空間演出をエリア内に散りばめる	コト+モノ A：フェリーターミナルの商的機能は臨港道路側に開き相対する市街地側との間で沿道型商店群を形成。うみ・まち通りと”市庭（いちば）”とを有機的に繋ぐ
	モノ：既存の商圏規模や継続・承継意向などを把握すると共に、不足業種に関するマーケットサウンディングを行う	モノ：集会所と合築するあんき市場など、既存の商業機能を高めつつ、新設の施設には新しい店舗を入れていく	住+働+食 B：住居コアには新規起業者やワーケーション利用者を受け入れ、仕事の場と夜を中心とした隠れ家での憩い、交流の場を形成する
	食：島民、新島民、来訪者の食嗜好を整理すると共に、既存店舗の受容性から、新設と改善の必要性を把握する	食：フェリーターミナル内には短期滞在来訪者向け、隠れ家テラスには移住者向けなど、嗜好に応じた食の場を展開	モノ+遊 C：マルシェ広場、ステージ広場をマグネットに、あんき市場＋集会所の合築と既設建築で”市庭（いちば）”領域を形成する
	働：新島民の起業動向を把握しつつ、地元IT、人材育成企業を主体として、起業・就業希望者のトレーニングをする	働：隠れ家テラスやフェリーターミナルには移住起業者の既存店舗の移転や新規起業者の店舗を受け入れる	学+遊 D：探究学スペースを拠点に植生等の勉強、遊びのプログラム、まちづくりについての探究に大学生等と共に取り組み、徐々にフィールドを街全体へと広げていく
	住：隠岐の島町の移住施策と連携するほか、まちなかへの住み替え希望の意向などを調査する	住：まちなかに整備する住居コアは既存住民の住戸の他新住民や中長期滞在用のスペースも確保する	
	学：地元IT、人材育成企業の取り組む高校生向けIT教育プログラムを発展させ、Rubyの学習や探究学へと広げていく	学：フェリーターミナルの３階に探究学スペースを設け、小中高生が大人と触れ合いながら学習を深める	
	遊：隠岐の島の伝統的な遊び、自然の魅力などを小中生と一緒に掘り起こす体験ワークショップを開催	遊：ジオゲートウェイ→フェリーターミナルを隠岐の島の植生に因んだ植栽帯で繋ぐ（子どもが植樹等に参加）	

アイノマ体制図

- 提案チーム
  - 住民ニーズの丁寧な聞き取り
  - ワークショップなどの運営
  - デザイン方針基づく設計への反映
- 地元 IT、人材育成企業
  - テーマ毎のキーパーソン紹介
  - 専門的知見による学習プログラム
- 総務省地域力創造アドバイザー
  - 商業機能に関するサウンディング
  - まちなかの活性化、運営組織立ち上げ

新会社
- 提案チーム
  - 各種設計
  - 協議会や WS の運営
  - 新施設の自主利用
- 地元 IT、人材育成企業
  - 学習プログラム
  - 情報発信ほか
- 総務省地域力創造アドバイザー
  - リーシング
  - 収益事業の検討
  - エリマネ の検討

運営：西郷港エリア活性化協議会（町 / 住民 / 高校生 / 商業者）
- 方針決定
- 意見交換

育成：タウンマネージャー/組織集落支援員、地域おこし協力隊など
- 生業検討

しげさ踊りなどの文化活動 小中高生の探究活動 ← 収益から充当 ← 新会社（出資：民間企業・金融機関）
- アセットマネジメント
- パブリックスペース活用
- DMO、地域商社
- 人材育成

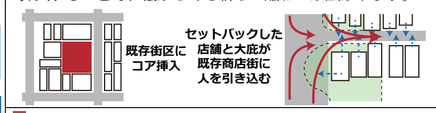
隠岐の島町民 NPO 商工会など ← 案件の発掘 → ファンド（出資：政府系・地銀）
- インキュベーション
- まちづくり活動への助成

4.交流機能に関する整備方針
地域とつながるまちづくりの基盤〈アイノマ〉

西郷港周辺地区の利用者であり、まちづくりの担い手である「島民」「新島民」「来訪者」のそれぞれが求める新しい「日常以外の環境」が重なる場として隠岐の島の〈アイノマ〉を提案します。既存施設を活用しながら、豊かな文化をもつ地域とつながる新しい西郷港周辺地区は、「食、人、モノ、コト、学、働」の様々な活動を行う人々が共に同じ空間を共有する交流の場となります。

5.商業機能に関する整備方針
まちとつながるアイノマのなりわい空間

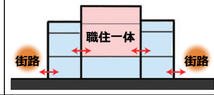
ターミナルを改修し街側の顔はガラスファサードの店舗として、臨港道路沿いに街と港につながる店舗空間をつくりだします。街区の建物は既存を活かしつつ、部分的に改修してアイノマの新しい取り組みを受け入れます。街区全体は既存を踏襲し分棟形式で更新し、国道軸に面する北側街区は一体で開発する際は長屋形式とします。街路に面した側にファサードを向け、店舗やバックヤードとなるコアを挿入することで、懐かしくも新しい賑わいが広がります。



6.暮らし機能に関する整備方針
新しい商業・生活を支える街区改修

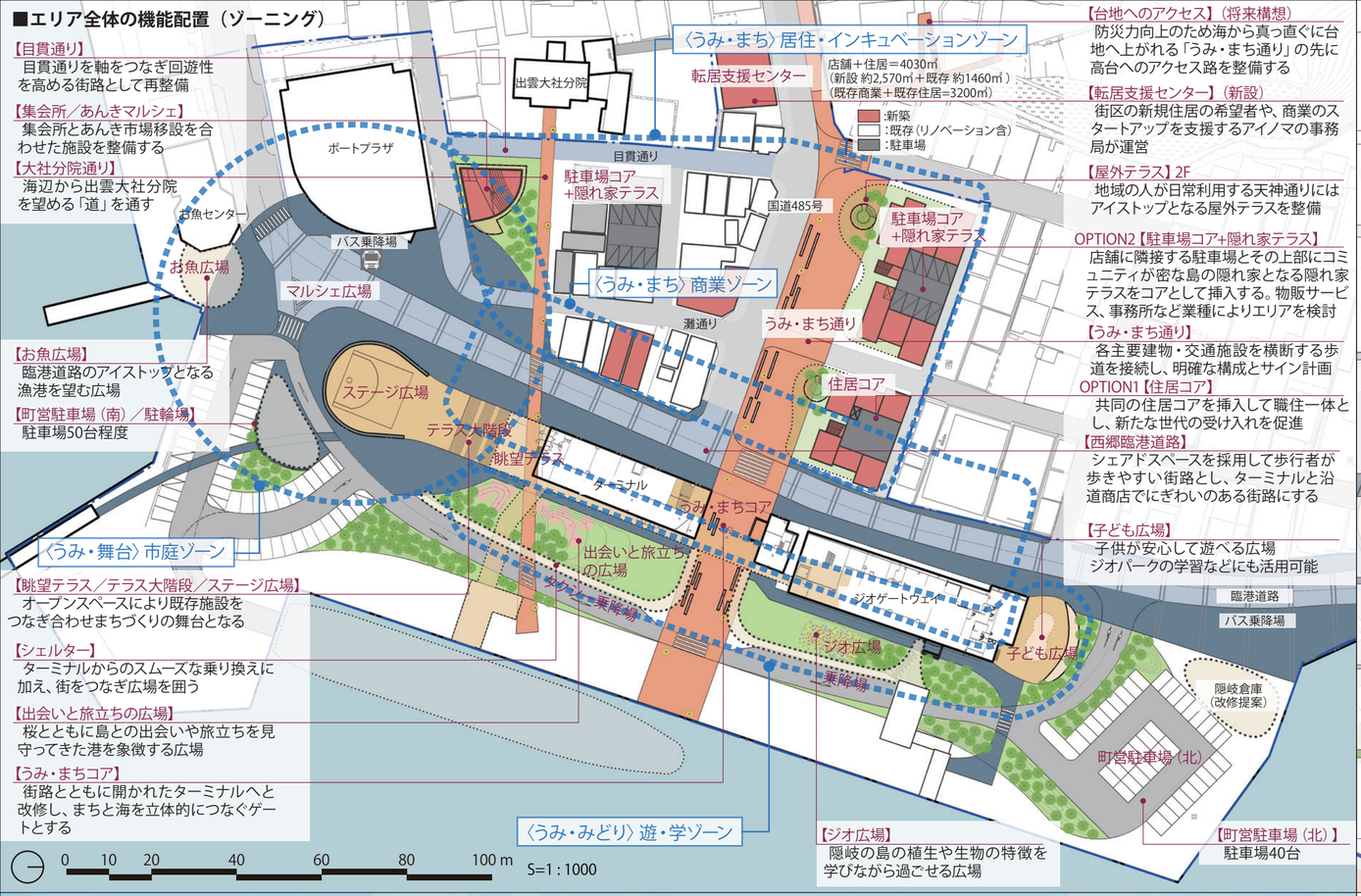
西郷港周辺地区はターミナルや商業地と隣接するポテンシャルの高い商業・居住エリアでありながら駐車場と一体となった新規整備の難しさなどから十分に活用されていません。現居住者と新規居住者の住まいに加え、アイノマの機能をもつ新しい商業・生活を支える街区改修を行い、立地を最大限生かしたまちづくりの基盤を整備します。

OPTION01: 住居コア



OPTION02: 駐車場コア＋隠れ家テラス

■エリア全体の機能配置（ゾーニング）



【目貫通り】
目貫通りを軸をつなぎ回遊性を高める街路として再整備

【集会所／あんきマルシェ】
集会所とあんき市場移設を合わせた施設を整備する

【大社分院通り】
海辺から出雲大社分院を望める「道」を通す

【お魚広場】
臨港道路のアイストップとなる漁港を望む広場

【町営駐車場（南）／駐輪場】
駐車場50台程度

【眺望テラス／テラス大階段／ステージ広場】
オープンスペースにより既存施設をつなぎ合わせまちづくりの舞台となる

【シェルター】
ターミナルからのスムーズな乗り換えに加え、街をつなぎ広場を囲う

【出会いと旅立ちの広場】
桜とともに島との出会いや旅立ちを見守ってきた港を象徴する広場

【うみ・まちコア】
街路とともに開かれたターミナルへと改修し、まちと海を立体的につなぐゲートとする

【台地へのアクセス】（将来構想）
防災力向上のため海から真っ直ぐに台地へ上がれる「うみ・まち通り」の先に高台へのアクセス路を整備する

【転居支援センター】（新設）
街区の新規住居の希望者や、商業のスタートアップを支援するアイノマの事務局が運営

【屋外テラス】2F
地域の人が日常利用する天神通りにはアイストップとなる屋外テラスを整備

OPTION2【駐車場コア+隠れ家テラス】
店舗に隣接する駐車場とその上部にコミュニティが密な島の隠れ家となる隠れ家テラスをコアとして挿入する。物販サービス、事務所など業種によりエリアを検討

【うみ・まち通り】
各主要建物・交通施設を横断する歩道を接続し、明確な構成とサイン計画

OPTION1【住居コア】
共同の住居コアを挿入して職住一体とし、新たな世代の受け入れを促進

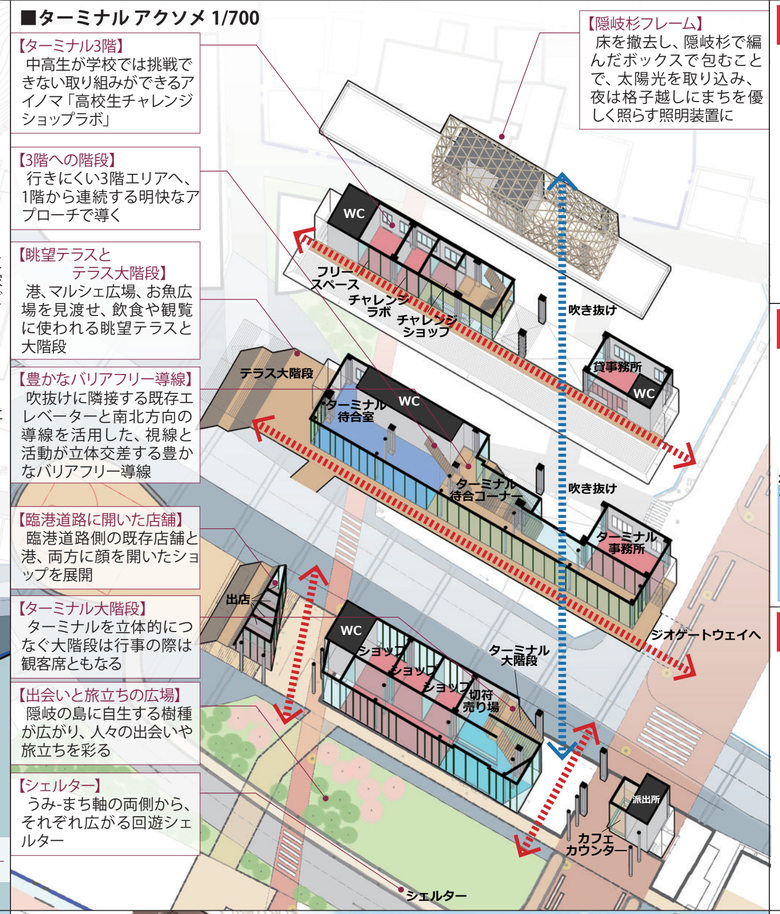
【西郷臨港道路】
シェアドスペースを採用して歩行者が歩きやすい街路とし、ターミナルと沿道商店でにぎわいのある街路にする

【子ども広場】
子供が安心して遊べる広場
ジオパークの学習などにも活用可能

【ジオ広場】
隠岐の島の植生や生物の特徴を学びながら過ごせる広場

【町営駐車場（北）】
駐車場40台

■ターミナル アクソメ 1/700



【ターミナル3階】
中高生が学校では挑戦できない取り組みができるアイノマ「高校生チャレンジショップラボ」

【3階への階段】
行きにくい3階エリアへ、1階から連続する明快なアプローチで導く

【眺望テラスとテラス大階段】
港、マルシェ広場、お魚広場を見渡せ、飲食や観覧に使われる眺望テラスと大階段

【豊かなバリアフリー導線】
吹抜けに隣接する既存エレベーターと南北方向の導線を活用した、視線と活動が立体交差する豊かなバリアフリー導線

【臨港道路に開いた店舗】
臨港道路側の既存店舗と港、両方に顔を開いたショップを展開

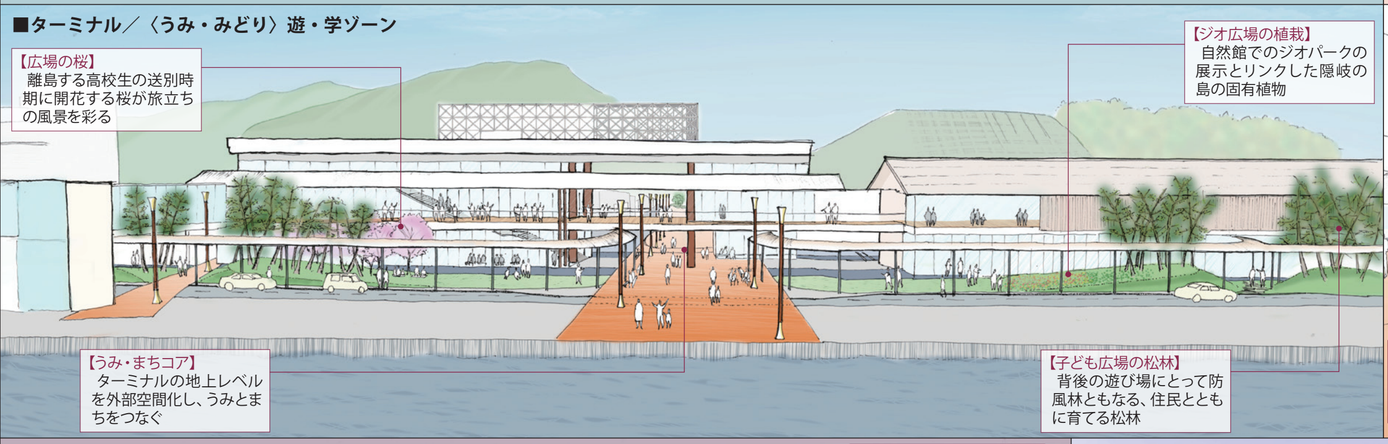
【ターミナル大階段】
ターミナルを立体的につなぐ大階段は行事の際は観客席ともなる

【出会いと旅立ちの広場】
隠岐の島に自生する樹種が広がり、人々の出会いや旅立ちを彩る

【シェルター】
うみ-まち軸の両側から、それぞれ広がる回遊シェルター

【隠岐杉フレーム】
床を撤去し、隠岐杉で編んだボックスで包むことで、太陽光を取り込み、夜は格子越しにまちを優しく照らす照明装置に

■ターミナル／〈うみ・みどり〉遊・学ゾーン



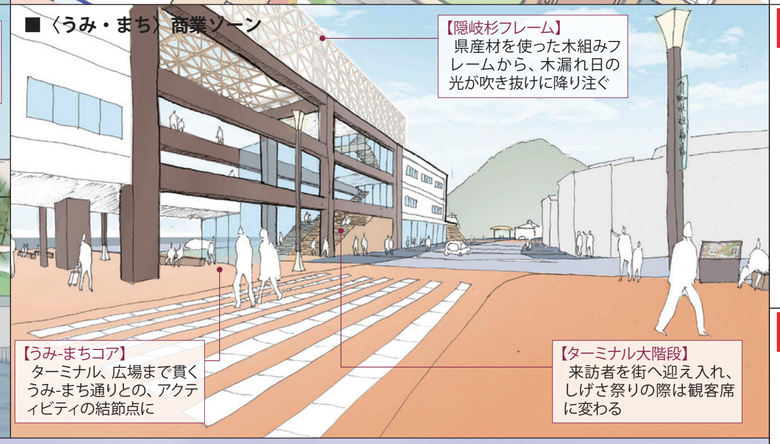
【広場の桜】
離島する高校生の送別時期に開花する桜が旅立ちの風景を彩る

【ジオ広場の植栽】
自然館でのジオパークの展示とリンクした隠岐の島の固有植物

【うみ・まちコア】
ターミナルの地上レベルを外部空間化し、うみとまちをつなぐ

【子ども広場の松林】
背後の遊び場にとって防風林ともなる、住民とともに育てる松林

■〈うみ・まち〉商業ゾーン

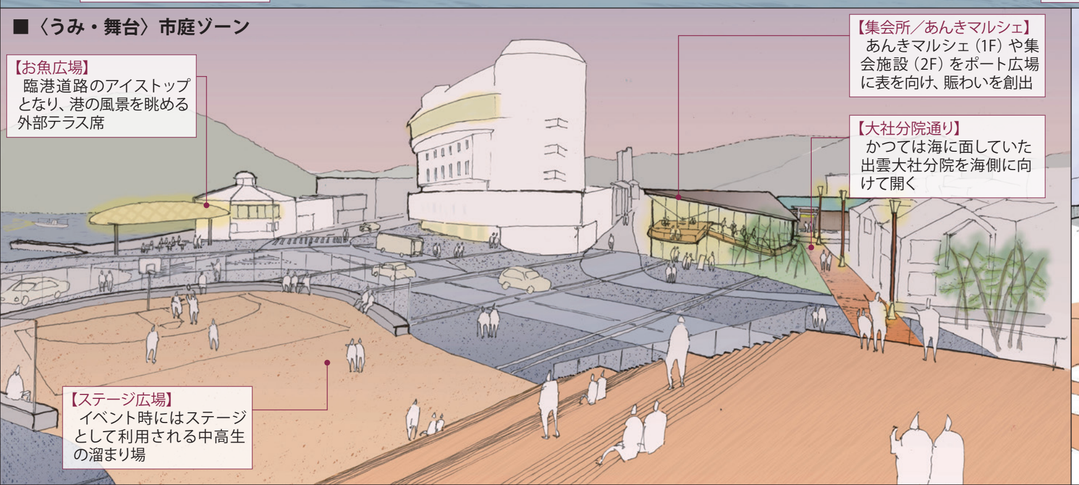


【隠岐杉フレーム】
県産材を使った木組みフレームから、木漏れ日の光が吹き抜けに降り注ぐ

【うみ-まちコア】
ターミナル、広場まで貫くうみ-まち通りとの、アクティビティの結節点に

【ターミナル大階段】
来訪者を街へ迎え入れ、しげさ祭りの際は観客席に変わる

■〈うみ・舞台〉市庭ゾーン



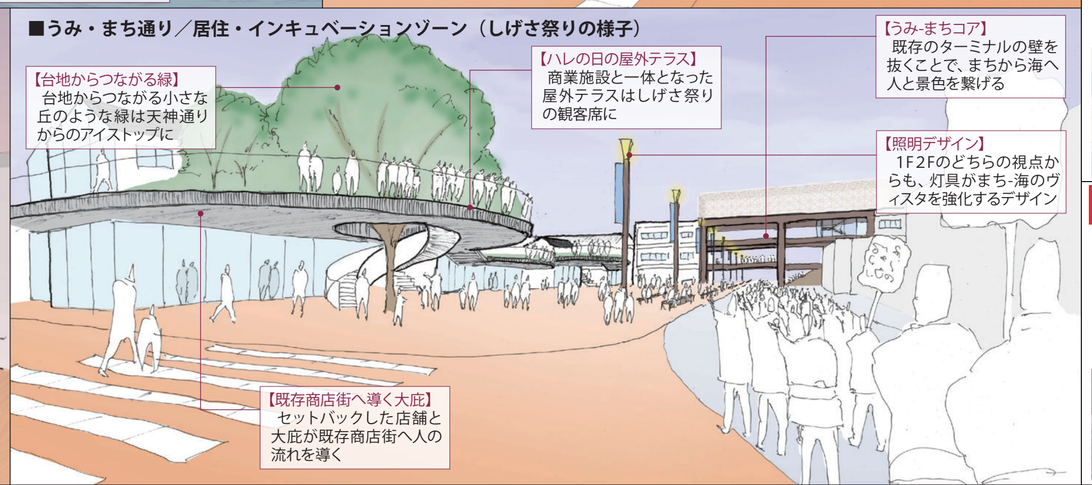
【お魚広場】
臨港道路のアイストップとなり、港の風景を眺める外部テラス席

【集会所／あんきマルシェ】
あんきマルシェ（1F）や集会施設（2F）をポート広場に表を向け、賑わいを創出

【大社分院通り】
かつては海に面していた出雲大社分院を海側に向けて開く

【ステージ広場】
イベント時にはステージとして利用される中高生の溜まり場

■うみ・まち通り／居住・インキュベーションゾーン（しげさ祭りの様子）



【台地からつながる緑】
台地からつながる小さな丘のような緑は天神通りからのアイストップに

【ハレの日の屋外テラス】
商業施設と一体となった屋外テラスはしげさ祭りの観客席に

【うみ-まちコア】
既存のターミナルの壁を抜くことで、まちから海へ人と景色を繋げる

【照明デザイン】
1F2Fのどちらの視点からも、灯具がまち-海のヴィスタを強化するデザイン

【既存商店街へ導く大庇】
セットバックした店舗と大庇が既存商店街へ人の流れを導く

7.景観形成の方針
海と街がつながる新しい港の景観

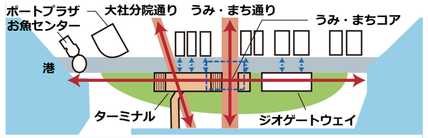
西郷港周辺地区に、台地の緑が海につながるのびやかな景観とオープンスペースをつくります。景観を形成する屋根やオープンスペースの舗装材に共通して地場産材の活用を検討し、隠岐の島の新しい風景をつくります。また新設、リノベーションともに活動が通りや街に滲み出し、一体的で魅力的な景観を作るよう景観ルールを検討します。

木材フレームの屋根

隠岐石骨材
Co 洗い出し

8.西郷港周辺地区デザイン図
ターミナルを中心とした島のゲート＋防災

ターミナルの吹き抜けゲートは、西郷港のエリアや人をつなぎ、海とまちの視線、賑わいの核となります。2つの大階段は、フェリーと街の立体的な回遊性をつくります。大階段は、観覧席など交流の場として活用されるだけでなく、災害時は、街区の大庇テラスやコアと共に、一時避難場となります。

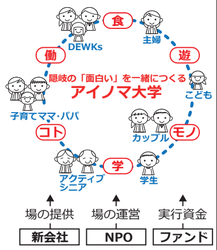


9.各機能の連携を探るための手法に対する提案
デザインノートによるマチナカ連携まちづくり

西郷港周辺の既存施設活用の連携を、オープンスペース整備とアイノマのプログラムを連動して推進します。地域の歴史/資源/活動/将来計画などを地域のヴィジョンとして描く「西郷デザインノート」を各地域の方々とともに作成し、隠岐の島町のまちづくり上の本整備事業の位置付けを明確にするとともに、西郷港の整備を地域全体でのまちづくりに展開していきます。背後のマチナカを含めた広域の案内・サイン計画や地区内の道の整備を進め、日常と有事に機能する公共空間とします。

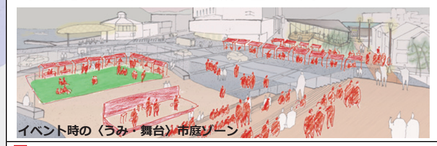
10.整備する施設の利活用や運営に対する提案
まちづくりが育つ仕組みづくり（中間支援組織）

施設利用を促進するためには町民や事業者の皆さんに「ユーザー」ではなく「一緒にいい施設にする（＝育てる）仲間」になって頂く必要があります。運営段階で設立する新会社等が中間支援組織としての役割も担い、皆さんの身近な課題の解決や、様々なアイデアを形にするための学びと実行の場「アイノマ大学」を設立し、一緒に取り組み街の賑わいを創出・持続します。



11.にぎわいを演出する手法などの提案
日常と地域行事の舞台となるオープンスペース

単なる施設整備だけではなく背後の町を含めた、まちづくりとして西郷港の再整備を進めることで、本当に人のいる多様な風景の創出を目指します。うみ・まち通りやポート広場、ステージ広場は日常と地域行事に活用されます。隠岐杉を用いた屋根材やオリジナルの照明によりエリア全体で一体感とにぎわいのある景観を生みます。


イベント時の〈うみ・舞台〉市庭ゾーン

12.その他の提案
台地-まち-うみをつなぐ緑と地場産材でつなぐ

台地から海へと連なる〈うみ・みどり〉遊・学ゾーンの緑は、地域の人と協力してつくり育てていきます。生育が難しく時間がかかる海沿いの植栽を、樹種選定や植栽WSなどを地元の植栽業者さんや小中学生とともに行い、地域の人が主体となって関わる場としていきます。木組みフレームやストリートファニチャーには積極的に地場産の隠岐杉を用いることで、地場の林業との連携を図ります。

植栽 WS の様子
木育 WS の様子